

令和5年度教員による学校評価 評価法(達成度):5段階方式 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(50%前後) D:まだ不十分(30%前後) E:目標・方策の見直し(20%以下)

	努力目標/目標設定の理由	評価項目	評価基準	実績	評価	来年度の改善点
教務部	努力目標 地域社会から信頼される魅力ある学校づくりを推進する。	①中学校との連携強化をはかり、学校のさらなる認知度アップをはかる。	①ホームページ・学校案内・学校要覧・学校説明会・中学校訪問を通して認知度をアップできたか。	ホームページの更新がすばやくでき、さまざまな行事の配信ができた。中学校訪問は49校実施できた。学校説明会は3校だった。	B	在校生等が多い学校を訪問していたが、通学可能で本校にあまり縁のない学校を訪問するなど、中学校訪問先の検討を行う。
	目標設定の理由 さまざまな活動を通して積極的な情報提供を行い、保護者・地域との連携を深めながら、学校の認知度・理解度アップを目指し、信頼される学校づくりに努力する。	②GIGAスクール構想の実現化を図り、教育環境のICT化とその有効活用を進める。	②GIGAスクール構想の実現化を図り、教育環境のICT化とその有効活用を進められたか。	学校・授業評価をWEBを利用して実施できた。		アンケートの回答率が低かったため、生徒はHR等で時間をとって実施する。保護者へはメールで実施を促すなどの工夫が必要である。
	③生徒・保護者が入学を望む学校にする。	③入学してよかったと思う生徒・保護者が増えたか。	③昨年度と比較し、よかったと思う生徒が73%から83%増えたが、保護者は79%から71%に減ってしまった。	昨年年度と比較し、よかったと思う生徒が73%から83%増えたが、保護者は79%から71%に減ってしまった。		クラスや部活動等で保護者との連携をとり、本校への理解を深めてもらう。渉外部、学年と連携し、保護者の学校行事への参加率をあげる。
渉外部	努力目標 教育目標・学則に基づき、校内外の諸機関・諸団体との連携をとり、学校運営を円滑にするるとともに、本校の発展に寄与する。	①学校と家庭とのスムーズな協力関係の構築に努め、PTA活動の発展に寄与する。	①PTA活動に参加しやすい環境作りを行うことで、保護者の参加を促すことができたか。	PTA通知配布の旨を必ず一斉メールで配信し、文書が確実に家庭に届くようにした。出欠確認などは比較的スムーズに行うことができた。	B	PTA研修会は、本部役員のみ参加にとどまった。より多くの保護者の方の興味や関心を惹くような企画など、今後も継続的な工夫が必要である。
	目標設定の理由 さまざまな活動を通して積極的な情報提供を行い、保護者・地域との連携を深めながら、学校の認知度・理解度アップを目指す。	②円滑な同窓会活動の企画・運営を行う。	②在校生や同窓生に対して同窓会活動について周知し、同窓会活動への参加を促す活動を行うことができたか。	引き続き、同窓会入会式や式典等で、同窓会長や係から活動内容の説明を行い、継続的に周知する。		三十歳の会など、同窓会活動が低迷している。同窓会役員の方々との連携を取りながら、必要に応じて活動内容の再検討などを行う。
	③校内外の諸機関・諸団体と連携し、地域社会から信頼される学校作りの一端を担う。	③地域や家庭に対して、学校の理解促進につながるようなアピールを行うことができたか。	③校内でのPTA研修会の実施や鶴翔祭の模擬店出店など、家庭や地域に向けたPTA活動を実施することができた。	校内でのPTA研修会の実施や鶴翔祭の模擬店出店など、家庭や地域に向けたPTA活動を実施することができた。		より充実したPTA活動を実施するとともに、学校HPなどを利用して、地域や家庭に向けてPTA活動内容をよりアピールしていく。
進路指導部	努力目標 広い視野に立った進路目標の設定とその実現に向けた進路指導の実践により社会的・職業的自立を促す。	①3年間を見通した進路指導と、生徒の社会的・職業的自立を目指し、校内外と協力したキャリア指導の実践。	①それぞれの生徒が社会における自分の役割を意識した進路研究・進路選択ができたか。	内容やタイミングによって、個別指導と全体指導をバランスよく行い、外部とも連携してより現実的な進路研究ができるようにした。	B	進路多様性に対応した指導計画だけでなく、モチベーションの多様性に配慮した指導法を検討する必要がある。
	目標設定の理由 多様な進路に柔軟に対応できる進路指導体制の構築及び実践により、生徒が社会で自立できるようにするため。	②全教員参画によるより最適な進路指導の実施。	②全教員の情報共有と協力体制により、個に応じたより最適な進路指導を実施できたか。	校内のみならず外部団体とも連携して、多様な進路希望に対応したガイダンスを実施した。		学年間の協力体制で進路指導を実施できているが、特に各学年の進路担当者の負担の軽減方法を検討する。
	③校内外のデータベース有効活用による進路指導の実践。	③校内外のデータベースを効果的に活用して、より効果的な進路指導を実施できたか。	③進路実績のデータ保存と利活用によって、誰でもアクセスできるデジタルツールを提供した。	進路実績のデータ保存と利活用によって、誰でもアクセスできるデジタルツールを提供した。		継続して蓄積作業をするるとともに、使いやすいデジタルツールにする。
学習指導部	努力目標 進路実現に向けた学習環境の整備と充実を図る。	①朝読・朝学の時間を確保し、教職員の意識を高める手立ての一つとする。	①朝読朝学が学校全体で粛然と実行され、一日の始まりが習慣づいたか。	概ね全学年全クラスで朝読の時間は静粛が保たれていたようだが、全員が必ず読書をしていただこうとそうとは言い切れない。	C	行事の精選・見直しを行い、適宜、朝学の導入も視野に入れて検討する。
	目標設定の理由 進学・就職に対応できる学習環境を整備・充実させ、生徒一人ひとりの能力を伸ばす。	②授業を中心に、日々の学習活動全般が恙なく進行できるよう環境を整える。	②日々の学習活動全般が爽やかなものとなり、安心して学習を続けられる環境が整ったか。	ICTの整備やさまざまな工夫がなされ、全体としては向上させることができた。		改善が必要な部分はどんどん見直しをし、生徒の学習に寄与するプログラムを積極的に導入する。
	③生徒の向上が見られるような学習活動の支援を続ける。	③生徒の成長や行動に多少の向上心が読み取れるようになったか。	③昨年度に比べて欠席欠課の多い生徒が減り、向上心が見られる生徒が増えた。	昨年度に比べて欠席欠課の多い生徒が減り、向上心が見られる生徒が増えた。		担任や保護者と積極的に連携を図り、生徒の向上心を高め、一人でも多くの生徒の単位修得を支援する。
生徒指導部	努力目標 未然防止、早期発見・早期対応、適切な対応に努め、危機管理意識を高める。	①いじめを許さない環境と生徒・保護者との信頼関係の構築。	①積極的な認知といじめ解消率が増加したか。	・学期1回だった「レスキュー調査」に加え、月1回の「いじめアンケート」を実施できた。 ・いじめの重大事態は0件である。 ・校内研修として「いじめ問題理解研修」を実施できた	B	○全教職員が「いじめ情報共有シート」に入室し、いじめの情報共有や指導の際の参考資料となるようにする。
	目標設定の理由 生徒指導に係る諸問題は、生徒の生命を脅かす問題に発展する可能性がある。そのことを理解し、日頃の姿勢（未然防止・早期発見）、重大な問題に発展させない（適切な対応）が必要である。	②交通事故防止と交通ルール、マナーの向上。	②交通事故の減少ができたか、 ・自転車安全利用五則を守り、苦情等が減ったか。 ・駐輪マナーの向上（校内・校外）が図れたか。	・事故報告4件（昨年度より減少） ・苦情数は例年と同程度 ・校内の駐輪マナーは昨年度よりは増加していると思われる。しかし、来賓駐輪場に駐輪する生徒が数名いる。		○日常の交通指導の他、苦情や事故現場等での交通委員と協力した臨時指導の実施回数を増やす。
	③挨拶を中心とした、礼儀とマナーの向上、規則の遵守等の基本的な生活習慣の確立。	③積極的な挨拶をする生徒が増え、頭髪指導等の生活指導が減ったか。	③教職員による朝の正門、昇降口での立ち番を増やして、生徒と積極的に挨拶をする回数を増やした。	・教職員による朝の正門、昇降口での立ち番を増やして、生徒と積極的に挨拶をする回数を増やした。		○立ち番する教職員数の増加を検討する。
	④教育相談体制の充実。	④クラス、学年と情報交換会の連携を深めることができたか。 ・情報交換会からケース会議等の教育相談活動に活かすことができたか。 ・専門機関との連携を図り、生徒へ適切な対応ができたか。	④短時間での情報交換が実施できた。 ・情報交換の内容からからSCや警察等の関係機関に繋げることができた。	・短時間での情報交換が実施できた。 ・情報交換の内容からからSCや警察等の関係機関に繋げることができた。		○日常から管理職を含めた、密な情報交換が実施されているため、必要に応じた時間の短縮や回数の減少を行っていく。

保健安全部	努力目標 基本的な生活習慣の確立、災害時における危険予測回避し、適切な対応に努め、危機管理意識を高める。校内美化活動を推進する。	①基本的な生活習慣の確立。	①生徒の実態に合わせた保健指導を行い、生活習慣の改善が見られたか。	生徒の実態に応じた保健指導を実施したが、著しく生活習慣の改善が見えなかった生徒は見られなかった。	B	主に、担任からの生活習慣に関する指導に偏ってしまっていた。担任任せにせず、多方面からの指導が必要である。そのための情報共有が必要。
		②災害、危機等発生時における危険を予測し回避する判断力・対応力を身につけさせる。	②周りの状況に応じて主体的に判断し、行動や対応することができたか。	周囲の状況に応じて主体的に判断し対応しようとする生徒も見られた。		危険を予測し、回避するための行動について考える機会を定期的にとるようにする。
		③美化活動を推進する。	③主体的に校内美化に取り組みることができたか。	校内美化に取り組めた。		主体的に取り組ませることが困難な集団もあった。環境整備委員が中心となり美化活動を実施する機会を増やす。
特別活動部	努力目標 集団の一員として自主的・積極的に規律を守り、責任を重んじ、相互に協力し合う態度を育成し、自治能力の向上を図る。	①生徒会活動を充実する。	①主体的な活動ができる計画・運営ができたか。	鶴翔祭では、各クラスの出し物やステージ発表に向けて、主体的に活動した。	B	行事を中心とし、生徒がより主体的に活動し、責任をもって協働できる機会を設ける。
		②委員会活動を充実する。	②委員会活動の実績が向上したか。	おおむね充実した委員会活動になった。特に、鶴翔祭では、多くの委員会が運営に携わることができた。		生徒がより課題意識をもって委員会活動に取り組めるようにする。
		③生徒が様々なことにチャレンジし、他者と協働できる力を身に付けられるようにする。	③生徒が様々なことにチャレンジし、他者と協働できるような機会を設けることができたか。	鶴翔祭では、各クラスの出し物やステージ発表において、様々なことにチャレンジし、集団の一員としての自覚をもち協働しながら活動することができた。		他者と協働することに対して消極的な生徒が、集団としての自覚をもち責任をもって活動できるようサポートする。
スポーツ科	努力目標 スポーツ文化の発展に貢献できる人材を育成する。	①体育・スポーツの指導者・リーダーとしての基礎的な知識や態度を養う。	①理論学習の充実及び生徒自らが考え、判断できる授業が展開できたか。	率先して行動するリーダーシップやそれに伴う判断力が身についた生徒を一定数育成できているが、自主性が乏しい生徒の変容はなかなか見られない。	B	自主性が乏しい生徒にも変容を促すような授業内容をこれまで以上に工夫していく。
		②運動の理解と合理的な実践により、正しい運動の方法論や実践能力を養う。	②各種目や運動の特性を理解させ、自主的・計画的に運動ができるように促した授業が展開できたか。	種目に左右されず、自主的計画的に運動に取り組める生徒が徐々に増えてきている。しかし、種目により意欲が目に見えて減退する生徒の変容はなかなか見られない。		魅力的な内容の授業を展開し、どんな種目でも意欲的に取り組む生徒を増やしていきたい。
		③スポーツ活動を通して、忍耐力や困難に打ち勝つ力を養う。	③失敗したり、困難なことがあった時に、自分自身と向き合いながら粘り強く乗り越えていくように指導できたか。	諦めが早い生徒は増えてきているように感じるが、学校生活を通して良い方向へ変容している生徒も多いように感じる。		周囲のせいにするのではなく、自分と向き合いながら成長していく生徒を増やしていきたい。
		④スポーツのあらゆる場面で事故防止に努め、自身と仲間の安全に配慮して取り組む態度を養う。	④授業や部活動において危機管理意識を涵養できたか。	概ね達成できている。		引き続き危機を予測する能力を養っていき、授業や部活動中の事故を減少につなげたい。